

## 普及活動情勢報告（平成29年7月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

### 「アカマルカイガラムシ」の発生予察 ～発生予察用粘着板による防除適期の把握～



調査中のJA職員

土佐市は、「土佐文旦」の県内一の産地ですが、近年、防除時期の特定が難しい害虫として知られる「アカマルカイガラムシ」の増加が課題となっています。

そこで、JAとさし常緑果樹部会では、発生予察用粘着板を用いて、「アカマルカイガラムシ」の防除適期を判断しています。

農業改良普及課ではJAと連携し、5月30日より管内8ヶ所に発生予察用粘着板を設置し、調査を開始しました。6月26日の3回目の調査では、雄成虫の発生ピークが確認できたため、6月30日と7月1日にJAが地域内放送で生産者に薬剤防除を呼びかけました。

農業改良普及課は、今後も2回目の防除適期を特定するために、引き続き9月下旬まで調査を行っていきます。

### JAとさし胡瓜部会反省検討会

～平成29園芸年度の実績と課題、次年度に向けた取り組みについて～



29園芸年度に行われた  
環境制御の現地検討会

7月3日、JAとさし胡瓜部会は平成29園芸年度反省検討会を開催しました。販売実績では28園芸年度と比較して数量で105%、単価で87%と、収量増ながら単価安となりました。また、炭酸ガス施用農家の出荷量が慣行農家に比べ139%と、効果の差が現れました。

専門技術員、農業改良普及課からは、環境制御技術の利用方法や病虫害、農薬管理などを説明しました。農家からはキュウリの消費動向、他県産地の状況など含め熱心な質問が出されました。

農業改良普及課は生産安定を図るため、次年度に向け、栽培や土づくり勉強会を行います。

### 生産者や関係機関と連携し、普及指導計画を進めます。

～中央西地区普及推進協議会を開催～



普及推進協議会での意見交換

7月11日、生産者、女性リーダー、集落営農代表、関係機関の15名を集め、中央西地区農業改良普及推進協議会を開催しました。

農業改良普及課から、今年の普及指導計画や担い手サミット、中山間ルネッサンス事業など今年取り組む課題について説明を行いました。意見交換では、環境制御により、収量が増えることによる出荷体制の課題、労働力確保では、幼稚園の保護者との連携で作業員を確保している例、6次産業化に取り組み、販売量が増えている実態等の意見が出されました。

農業改良普及課では、引き続き生産者と課題を共有化し、関係機関と連携をしながら、普及指導計画を進めていきます。

ユリ類の生産安定をめざして  
～ユリ類基礎技術勉強会～



ネダニの生理生態を学ぶ

7月18日に、農業技術センター担当者と専門技術員を講師に若手の花き農家を対象としたユリ類基礎技術の勉強会を開催し、農家19人が参加しました。

今回の勉強会のテーマは、基礎技術に関するアンケート調査で最も要望が多かった「病害虫対策」で、参加者は熱心に聴講し「次作の管理に活かしたい」という声も聞かれました。

今後は、土壌管理や温度管理の勉強会を実施し、管内のユリ農家の生産安定を推進していきます。